

障害者に関する意識調査結果(市民アンケート)

インターネットモニター数 150人中

回答者数 81人

回答率 54%

Q1 あなたの身近に障害のある人がいますか、または、これまでいたことがありますか。(複数回答可)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 自分自身又は家族等身近な親族 | 6 趣味等の活動の場 |
| 2 学校 | 7 身近にいたことはない |
| 3 自分の職場 | 8 その他 |
| 4 自分の職場以外) | 9 いない |
| 5 隣近所 | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	無回答	実回答者
回答者数	38	9	19	15	19	9	10	4	10	133	0	81
構成率	46.9	11.1	23.5	18.5	23.5	11.1	12.4	4.9	12.4		0	

アンケート調査の結果から

多くの方(「身近にいたことはない」、「いない」の回答者を除く)の身近に障害のある人がいること(いたこと)がわかりました。日立市の人口は年々減少傾向にありますが、逆に高齢化率は増加傾向にあり、併せて障害者数も年々増加しており、今後は更に障害のある人がより身近なものとなるのが推測できます。

Q2 あなたは、障害のある人と気軽に話したり、障害のある人の手助けをしたことがありますか。

- 1 ある(Q3へ) 2 ない(Q4へ)

項目	1	2	計	無回答	合計
回答者数	64	16	80	1	81
構成率	80.0	20.0	100.0	1.2	

アンケート調査の結果から

Q1の結果からもわかるとおり、身近に障害のある人がいる(いたことがある)ことから、障害のある人と関わりを持ったことがある方が多くを占めています。

Q3-1 Q2で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような気持ちからでしょうか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから | 5 将来、自分も障害をもつ可能性があるから |
| 2 近所付き合いや親戚付き合いなどで | 6 何となく |
| 3 困っているときはお互い様という気持ちから | 7 その他 |
| 4 自分の仕事に関連して | 8 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	計	無回答	実回答者
回答者数	27	9	39	13	11	11	3	2	115	1	63
構成率	42.9	14.3	61.9	20.6	17.5	17.5	4.8	3.2		1.6	

Q3-2 Q2で「ある」と答えた方に伺います。それはどのような話や手助けでしたか。(複数回答可)(回答後、Q5へ)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 席をゆずった | 7 相談相手、話し相手 |
| 2 横断歩道や階段で手助けをした | 8 手話、点訳、音読など |
| 3 車椅子を押した | 9 寄附等の金銭的な援助 |
| 4 一緒に遊んだ | 10 募金活動 |
| 5 家事や買い物などの手伝い | 11 その他 |
| 6 入浴や着替えなどの手伝い | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	無回答	実回答者
回答者数	21	15	18	16	15	3	29	3	8	4	9	141	11	53
構成率	39.6	28.3	34.0	30.2	28.3	5.7	54.7	5.7	15.1	7.6	17.0		20.8	

アンケート調査の結果から

社会的弱者と言われる障害のある人が困っていることなどがあれば、自然に手助けすることができる社会となりつつあることが推測できます。

Q4 Q2で「ない」と答えた方に伺います。なかったのはどうしてでしょうか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 たまたま機会がなかったから | 6 自分にとって負担になるような気がしたから |
| 2 自分が何をすればよいかわからなかったから | 7 特に理由はない |
| 3 どのように接したらよいかわからなかったから | 8 その他 |
| 4 おせっかいになるような気がしたから | 9 わからない |
| 5 専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	無回答	実回答者
回答者数	12	1	2	1	1	0	3	0	0	20	1	15
構成率	80.0	6.7	13.3	6.7	6.7	0	20.0	0	0		6.7	

アンケート調査の結果から

「1 たまたま機会がなかった」ことから、障害のある人との関わりがなかった方が多くを占めています。

Q5 あなたは、障害のある人にかかわるボランティア活動(外出時の付添い、話し相手、レクリエーションの手伝い等)に興味がありますか。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 興味があり、実際に活動している | 4 興味はあるが、活動内容による |
| 2 興味があり、これまで活動したことがある | 5 興味がない |
| 3 興味があり、機会があればしてみたい | 6 どちらともいえない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	4	4	17	30	11	15	81	0	81
構成率	4.9	4.9	21.0	37.1	13.6	18.5	100	0	100

アンケート調査の結果から

6割を超える方(選択肢1~4)がボランティアに興味を持っており、活動の機会となる取組(ボランティアに興味がある方、障害のある人でボランティアを受けたい方のそれぞれのニーズや方法など)が必要です。

**Q6 あなたは、「共生社会」(※)という考え方を知っていますか。
※障害があっても、なくても誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす社会を目指す考え方**

- | | |
|-----------------|--------|
| 1 知っている | 3 知らない |
| 2 言葉だけは聞いたことがある | |

項目	1	2	3	計	無回答	合計
回答者数	41	22	18	81	0	81
構成率	50.6	27.2	22.2	100	0	100

アンケート調査の結果から

8割近い方(選択肢1~2)が知っており(聞いたことがあり)、その実現に向けた社会作りが必要です。また、残りの2割の方(選択肢3)への啓発が必要です。

Q7 あなたは、「共生社会」の考え方に基づいて、「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について、どう思いますか。

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 そう思う | 4 そう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 5 一概にいえない |
| 3 どちらかといえばそう思わない | 6 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	46	20	1	0	13	1	81	0	81
構成率	56.8	24.7	1.2	0	16.1	1.2	100	0	100

アンケート調査の結果から

8割を超える方(選択肢1~2)が理解を示しています。

**Q8 あなたは、「障害者週間」(※)を知っていますか。
※障害者や障害のある人に関する理解と関心を深め、障害のある人の社会参加への意欲を高めるために、毎年12月3日から9日までの1週間を「障害者週間」と国が定め、さまざまな取組が行われています。**

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1 月日も含めて知っている | 3 知らない |
| 2 月日までは知らないが、「障害者週間」があることは知っている | |

項目	1	2	3	計	無回答	合計
回答者数	2	28	51	81	0	81
構成率	2.5	34.6	62.9	100	0	100

アンケート調査の結果から

6割を超える方(選択肢3)が知らないことから、「障害者週間」を含め、障害者理解等の関する更なる取組が必要です。

**Q9 国や県、市では、障害のある人に対する理解を深めるために、さまざまな行事や催し(※)を行っています。あなたは、このような行事や催しに参加してみたいと思いますか。
※障害のある人のことをテーマとしたセミナーやシンポジウム、障害のある人による演劇・コンサート、障害のある人とともに行うスポーツ、障害のある人が作成した絵画等展示会・作品展、福祉バザーなど**

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 ぜひ参加したい | 3 参加したいと思わない |
| 2 機会があれば参加したい | 4 わからない |

項目	1	2	3	4	計	無回答	合計
回答者数	4	48	10	19	81	0	81
構成率	4.9	59.3	12.3	23.5	100	0	100

アンケート調査の結果から

6割を超える方(選択肢1~2)が興味を持っており、行事等の開催とその周知を図る必要があります。

Q10 あなたは、世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 あると思う(Q11へ) | 3 ないと思う(Q12へ) |
| 2 少しはあると思う(Q11へ) | 4 わからない(Q12へ) |

項目	1	2	3	4	計	無回答	合計
回答者数	49	27	3	1	80	1	81
構成率	60.5	33.4	3.7	1.2	98.8	1.2	100

アンケート調査の結果から

9割を超える方(選択肢1~2)が「あると思う」と答えています。

Q11 Q10で「あると思う」、「少しはあると思う」と答えた方に伺います。あなたは、5年前と比べて障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 かなり改善されている | 4 ほとんど改善されていない |
| 2 ある程度改善されている | 5 どちらともいえない |
| 3 あまり改善されていない | 6 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	実回答者
回答者数	8	32	17	8	7	4	76	0	76
構成率	10.5	42.1	22.4	10.5	9.2	5.3	100	0	

アンケート調査の結果から

5割を超える方(選択肢1~2)が「改善させている」と答えているものの、Q10の結果からも改善に向けた取組が必要です。

**Q12 障害のある人が生活するためには、生活するために不便を取り除く配慮や工夫が必要になる(※)ことがあります。あなたは、こうした配慮や工夫をしないことが「障害を理由とする差別」だと思いますか。
※例えば、商店の入り口などのスロープの整備や点字ブロック、音声案内等の設置など**

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 差別に当たると思う | 4 差別に当たるとは思わない |
| 2 どちらかといえば差別に当たると思う | 5 一概にいえない |
| 3 どちらかといえば差別に当たるとは思わない | 6 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	12	18	7	21	18	3	79	2	81
構成率	14.8	22.2	8.7	25.9	22.2	3.7	97.5	2.5	100

アンケート調査の結果から

「差別に当たるとは思わない」(選択肢4)が25.9%と多く、次いで、「どちらかといえば差別に当たると思う」(選択肢2)、「一概にいえない」(選択肢5)がそれぞれ22.2%となっています。

結果からもわかるとおり、捉え方も様々で、一概に判断することは難しいことから、ハード面の整備促進を図るとともに、ソフト面として、市民に対して弱者等に配慮することができる社会作りに努める必要があります。

**Q13 あなたが生活する身近な地域に、障害のある人が生活するための施設(※)ができることになったら、あなたはどのように感じますか。
※家事等の日常生活上の援助や介護が必要な障害のある人が、少人数で共同生活するグループホーム、多人数で生活する障害者施設など**

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 賛成と思う | 4 反対と思う |
| 2 事前に説明があればかまわない | 5 どちらともいえない |
| 3 施設の種類、対象者により判断と思う | |

項目	1	2	3	4	5	計	無回答	合計
回答者数	40	12	24	1	2	79	2	81
構成率	49.4	14.8	29.6	1.2	2.5	97.5	2.5	100

アンケート調査の結果から

5割近い方が「賛成と思う」(選択肢1)と答えており、共生社会の考え方が理解されつつあります。また、施設等の設置に当たっては、地域住民等に対する事前説明等(選択肢2~3)が重要であることが伺えます。

Q14 あなたは、公共機関や商業施設等に設置されている、車いす利用者等のための「みんなのトイレ」を利用することがありますか。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 頻りに利用する(Q15へ) | 3 利用の必要がない・利用したことはない(Q16へ) |
| 2 とときどき利用する(Q15へ) | 4 わからない(Q16へ) |

項目	1	2	3	4	計	無回答	合計
回答者数	3	24	49	0	76	5	81
構成率	3.7	29.6	60.5	0	93.8	6.2	100

Q15 Q14で「頻りに利用する」、「ときどき利用する」と答えた方に伺います。それはどのような理由からでしょうか。

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 体に不自由等があるから | 5 特に理由はない |
| 2 乳幼児を連れてくるから | 6 その他 |
| 3 一般トイレが混雑していたから | 7 わからない |
| 4 洋式便器があるから | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	計	無回答	実回答者
回答者数	3	10	9	5	1	5	0	33	0	27
構成率	11.1	37.0	33.3	18.5	3.7	18.5	0			0

Q16 あなたは、公共機関や商業施設等に設置されている、車いす利用者等のための「みんなのトイレ」を一般の方(あなた自身のことも含め)が利用することをどのように感じますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1 いつでも誰が使っても良いと思う | 5 罪悪感がある |
| 2 空いていれば誰が使っても良いと思う | 6 その他 |
| 3 車いす利用者等が優先して使えるよう利用は控えるべき | 7 わからない |
| 4 非常識だと思う | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	計	無回答	実回答者
回答者数	3	23	53	10	4	2	0	95	5	76
構成率	4.0	30.3	69.7	13.2	5.3	2.6	0.0		6.6	

アンケート調査の結果から

一般のトイレが利用しづらい、体が不自由の人や乳幼児連れなどが主に利用(Q15選択肢1～2)しており、また、優先すべきであるとの考え方(Q16選択肢3)が多くを占めていますが、混雑時等を含め、誰が使っても良いと思う方(Q16選択肢1～2)がいるように、「誰もが利用できるトイレ」として浸透していることが伺えます。

一方で障害のある人に行ったアンケート調査の結果では、「みんなのトイレ」が多機能化されることによって、体が不自由な人以外の利用が増え、「待たされた」、「利用できなかった」など、以前に比べて利用しづらくなったことが伺えることから、今後は、一般のトイレも多機能化するなど、分散化を図る必要があります。

Q17 あなたは、公共機関や商業施設等に設置されている、「障害者等優先駐車場」を利用することがありますか。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 頻繁に利用する(Q18へ) | 3 利用の必要がない・利用したことはない(Q19へ) |
| 2 とどき利用する(Q18へ) | 4 わからない(Q19へ) |

項目	1	2	3	4	計	無回答	合計
回答者数	1	10	65	0	76	5	81
構成率	1.2	12.4	80.2	0.0	93.8	6.2	100

Q18 Q17で「頻繁に利用する」、「とどき利用する」と答えた方に伺います。それはどのような理由からでしょうか。

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1 自ら体に不自由等があるため | 5 空いていたから |
| 2 家族等の体に不自由等があるため | 6 特に理由はない |
| 3 乳幼児を連れてくるため | 7 その他 |
| 4 入口に近いから | 8 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	計	無回答	実回答者
回答者数	3	6	1	0	0	0	1	0	11	0	11
構成率	27.3	54.5	9.1	0	0	0	9.1	0	100	0	

Q19 あなたは、公共機関や商業施設等に設置されている、「障害者等優先駐車場」を一般の方(あなた自身のことも含め)が利用することをどのように感じますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1 いつでも誰が使っても良いと思う | 5 罪悪感がある |
| 2 空いていれば誰が使っても良いと思う | 6 その他 |
| 3 車いす利用者等が優先して使えるよう利用は控えるべき | 7 わからない |
| 4 非常識だと思う | |

項目	1	2	3	4	5	6	7	計	無回答	実回答者
回答者数	0	1	55	36	11	1	0	104	5	76
構成率	0	1.3	72.4	47.4	14.5	1.3	0	6.6		

アンケート調査の結果から

体が不自由の人などが主に利用(Q17選択肢1～3)しており、また、優先すべきであるとの考え方(Q19選択肢3)が多くを占めています。一方で障害のある人に行ったアンケート調査の結果では、利用の必要性がない方が利用することにより困ったことがあるとの回答があることから、優先駐車場の利用方法等について、市民に対して理解・啓発を図る必要があります。

**Q20 「障害者基本法」では、県や市が、障害者計画(※)をつくることとなっています。この計画をつくるに当たって、意見や要望を出すことができる場が設けられるとしたら、あなたは参加したいと思いませんか。
※障害のある人への支援や社会参加を進めるための基本的な計画**

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1 参加したい | 4 関心がないので、参加したいとは思わない |
| 2 参加したいと思わないが、検討状況を知りたい | 5 その他 |
| 3 障害のある人や専門家でも十分議論すべきことなので、参加したいと思わない | 6 わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	9	41	19	0	1	6	76	5	81
構成率	11.1	50.6	23.5	0	1.2	7.4	93.8	6.2	100

アンケート調査の結果から

参加したいと答えた方(選択肢1)は多くありませんが、5割を超える方(選択肢2)が関心を持っています。計画策定に当たっては、パブリックコメントの実施や、計画策定後に計画書をホームページに掲載するなど、市民に対して情報提供等を図る必要があります。

**Q21 発達障害(※)を持つ本人やその家族に対する支援が求められています。そのためには、発達障害に関するまわりの理解が重要となりますが、あなたは、発達障害について市民の理解があると思いますか。
※代表的なもの：学習障害、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、自閉症など**

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 理解があると思う | 4 理解がないと思う |
| 2 どちらかといえば理解があると思う | 5 どちらともいえない |
| 3 どちらかといえば理解がないと思う | 6 知らない・わからない |

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	1	9	41	14	9	2	76	5	81
構成率	1.2	11.1	50.6	17.3	11.1	2.5	93.8	6.2	100

アンケート調査の結果から

7割近い方(選択肢3～4)が「理解がないと思う」と答えています。障害のある人に行ったアンケート調査の結果では、4割を超える方が「障害のある人に対して理解がある」と答えており、今後は、障害種別毎にその特性等を含めて、市民に対して理解・啓発を図る必要があります。

Q22 あなたは、障害のある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのようなことを希望しますか。(複数回答可)

1	障害のある人の雇用の促進	8	障害のある人に配慮した商品の開発
2	障害者になっても継続して働くことができる体制の整備	9	障害に関連する分野での国際協力の推進
3	障害のある人に配慮した事業所等の改善・整備	10	障害のある人のスポーツ、文化、レクリエーション活動に対する支援
4	職場での精神的な不安を解消する相談体制の整備	11	障害者団体に対する経済的支援
5	職場での事故防止体制の充実	12	その他
6	障害のある人を支援するための介護休暇制度やボランティア休暇制度の充実	13	わからない
7	障害や障害のある人への理解を深めるための研修の実施		

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計	無回答	実回答者
回答者数	43	57	39	26	31	32	33	28	9	24	25	1	3	351	5	76
構成率	56.6	75.0	51.3	34.2	40.8	42.1	43.4	36.9	11.9	31.6	32.9	1.3	4.0		6.6	100

アンケート調査の結果から

障害があっても働くことができる体制が求められていることがわかります。今後は、行政と企業、民間団体等が、これまで以上に連携して、障害者施策の推進を図っていく必要があります。

Q23 災害が発生した時、自力で避難することができない方(障害のある人や一人暮らしの高齢者等)に対する支援の取組について、あなたはどのように思いますか。

1	自主防災組織や自治会など地域で取り組んでいくことが望ましい	4	そうした取組は必要ない
2	地域と行政が協力して取り組んでいくことが望ましい	5	その他
3	プライバシーの問題があるので、行政が中心となって取り組んでいくことが望ましい	6	わからない

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	22	45	6	1	1	1	76	5	81
構成率	27.2	55.6	7.4	1.2	1.2	1.2	93.8	6.2	100

アンケート調査の結果から

東日本大震災を機に、地域の役割が重要であることが理解されつつあることがわかります。社会的弱者が地域において孤立しないよう、コミュニティ、地区民生委員等を中心とした地域と行政が連携して、支援体制の充実を図る必要があります。

Q24 障害のある人に関する国や地方公共団体の施策のうち、あなたは、どのようなサービスにもっと力を入れる必要があると思いますか。(複数回答可)

1	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動	7	障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保
2	就学児に対する、障害のある人への理解を深めるための福祉教育の充実	8	保健医療サービスやリハビリテーションの充実
3	ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実	9	点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実
4	生活の安定のための年金や手当の充実	10	その他
5	障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備	11	わからない
6	障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実		

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	無回答	実回答者
回答者数	36	33	24	25	43	47	42	21	22	3	3	299	5	76
構成率	47.4	43.4	31.6	32.9	56.6	61.9	55.3	27.6	29.0	4.0	4.0		6.6	

アンケート調査の結果から

回答の結果から、いずれの取組も求められており、分け隔てなく充実させる必要があります。

Q25 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障害者施策は進んだと思いますか。

1	かなり進んだと思う	4	ほとんど進んだと思わない
2	ある程度進んだと思う	5	どちらともいえない
3	あまり進んだと思わない	6	わからない

項目	1	2	3	4	5	6	計	無回答	合計
回答者数	4	23	29	7	4	7	74	7	81
構成率	4.9	28.4	35.7	8.7	4.9	8.7	91.3	8.7	100

アンケート調査の結果から

「進んだと思わない」(選択肢3~4)が「進んだと思う」(選択肢1~2)を上回っています。引き続き、障害者施策の充実を図るとともに、市民に対して制度等の情報提供を行うなどの周知に努める必要があります。

Q26 「しょうがい」の表記について、法令では「障害」と漢字で表記していますが、この表記の在り方については、さまざまな意見があります。「しょうがい」の表記として、どれがふさわしいと思いますか。

1	障害	5	どれもよい
2	障	6	その他
3	障がい	7	わからない
4	しょうがい		

項目	1	2	3	4	5	6	7	計	無回答	合計
回答者数	20	0	20	4	18	2	12	76	5	81
構成率	24.7	0	24.7	4.9	22.2	2.5	14.8	93.8	6.2	100

アンケート調査の結果から

「障害」(選択肢1)及び「障がい」(選択肢3)と答えた方が、それぞれ24.7%に上り、多くなっています。
表記の在り方については、国などの動向も踏まえ、障害のある人に意見を聞くなどしながら、見直しを含めて検討していきます。

Q27 障害者福祉施策について意見がございましたら、自由にご記入ください。

特別な配慮は必要ない。文字の変更はただのごまかし。障害のままで良い。

障害者保護者団体一部の役員の中には、権利主張が強い人が目立つようになったと思われます。障害者は健常者に迷惑をかけながら生きていることも自覚すべきだと思います。

自分の身になり困っている方に尽力するのは、人間として当然なすべき事。お金が有る方はお金で、ない方は協力できることは率先して行うことが重要。子供の時分からそのような教育をしていくことも必要でしょう。まずは大人が見本になることが肝要です。人間は神のもとに平等のはずです、皆で協力してこそ共生社会も健全に成長していくのではないかと。財政面で可能な限り施設の充実を図ることを望みます。

健常者には気が付かないことで障害者にとって不都合なことがしばしばある。健常者は障害者の声を真摯に受け止める施策が欲しい。

障がい者基本法にのっとり、市や県が計画を進めてくれていると感じ、嬉しく思います。少しずつ、小さなことからでも前進していくことを願います。

まだまだ障がい者に対する理解が乏しいと思う。理解促進活動を施策として取り入れた方がいいと思う。市長をはじめ、市民に多く理解してもらうため、市主催で、障がい者理解に関する講演活動などはいかがですか。

障害者をを食物にする福祉ビジネスにならないよう心がける事が重要と思う。

実際に福祉施設に行ったことはないのですが、知り得る情報から考えて、施設内での施策は促進されていると思います。これからは、施設外での施策をもっと進めていく必要があると感じます。

障がい者に対して施設の職員の接し方が良くないと聞くことがありますが、南高野町の南ひまわり学園の職員の皆さんは、利用者のために大変な努力をされていると感じます。利用者の表情でも分かると思います。月に一度ボランティアに伺っていますが、ボランティアに対しても色々な配慮をしてくださり、気持ちよく活動させて頂いています。このような施設が増えることを期待します。

自分は健常者なので、障害者の具体的なニーズが分からず、障害者計画に参画して意見を出せない。障害者からの意見をより多く、より多方面から収集する方法がベターと思う。

わずかでも前進し続け、決して後戻りしないことを望みます。

障がい者でも多種多様であると思います。(私の兄は障がい者ですが税理士として自立し尊敬しております。)まず考えるべきは障がい者の安心安全ではないかと思えます。ある会社では「障がい者がある程度雇用しなければならぬ」という話を聞いてます、こういう考え方は真の雇用になるのかと思うときがあります。

障害者が健常者と同レベルに生活しようとして、生活させようとするのは間違いだと思います。自分も後期高齢者となり、周辺に障害者が多くなり、自分も障害者になるポテンシャルが強まっていることを自覚するようになって、障害者はハンディを認めた上で、生活をエンジョイし、できるだけ自立をできるよう健常者が支えていくことを理念にしたいと思えます。いままで一緒にボランティア活動をしていた人や、両足義足でパソコン教室で最前列に座っていた老人など、障害者故に逆に健常者以上の強い意志を持った友人たちを思い出します。

障害と一括りでの質問はその持つ内容が広すぎて回答は大変では？ 分けるのも大変かな？ 但し、私的には障害者に関する行政サービスの内容が解ってはいません。例えば東京に居る娘は目に障害の有る人に、外出する時の付き添いサービスに参加しています。日立にも有るのでしょうか。その他:近所に20年近い閉じこもりの娘さんも。親も兄弟も同居してますので近所の私は如何したものやらと考えてしまいます。

福祉の街”日立”をめざしましょう！

就業支援などを行政が全面に立って行うべきです。

今まで係ったことがないので良く分かりません。

健常者が障害者を頭で理解しても本当の理解にはずれ違いがあると思えます。そのため障害者どうしが交流を頻繁に出来るような精神的な支えになる体制が必要と思えます。

ボランティアに参加したくなるような、市民向けPR活動を。

障害者福祉施設が、身近に見られないため地域では知らない方が多いと思う。市報にて特集的なページをさいてはどうか?。特に施策は、身近な所から、例えば、陸橋の階段、商店舗の出入り口、市道等のブロック表示と確保「公共施設周囲、大型店舗等はされているが」がされていない場所が多い。今は、健常者でも障害者となったときを考える資としたい。

健常者と障害者が共に話し合える場、楽しむ場、考える場が必要。学校教育に組み込み、障害者を理解する、支援するプログラムを勧めるべきで、暖かい目で見れる社会を作るべき。ボランティアは時間があつたら、ではなく、幼児教育のころから必須とすべき。

まだまだ不足していると思えます。

ボランティアで活動する場合、個人情報の関係からなかなか活動がうまくいかない場合があります。関係を潤滑に行うための話し合いが必要かと思えます。

障がい者が働ける施設の充実を進めるべきと考えます。

一定程度の施設サービスは、行政の責任で確保すべき。

障害者福祉政策を行うには行政のハード面が充実することは必要と思うが、個人個人の障害者に対する理解や共生の意識の変わっていかなければ進歩はないと思う。もっと障害者が特別な存在ではなく普通の存在として意識されれば自然と良くなっていくのではないのでしょうか。もっと小さいころからの教育や一緒に過ごす環境が充実すればよいと思う。